



Music: Twilight Zone

阿騎野・人麻呂公園 中之庄遺跡

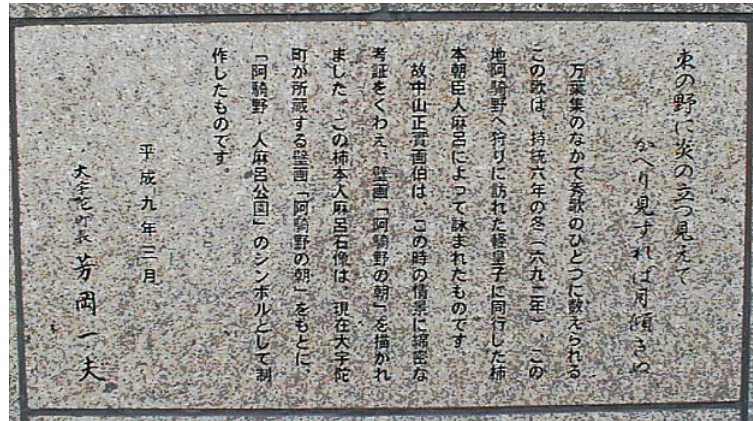
阿騎野（あきの）・人麻呂公園は、大宇陀町のほぼ中央部、宇陀川支流の本後川と黒木川に挟まれた丘陵端部に位置している。ここから東方に高見山をはじめとした宇陀の連山、近くに古城山、北は万葉公園、西は西山岳、南は吉野の峰峰を望め、「かぎろひ」は高見山方面に見る事ができる。持統6年（692年）冬の一日、文武天皇となる前の軽皇子の伴でこの地を訪れた柿本人麻呂が「ひむがしの野にかぎろひの立つみえてかえりみすれば月かたぶきぬ」と名歌を残したゆかりの地である。現在公園には、昭和15年に立てられた万葉歌碑が立ち、その碑面に佐々木信綱の筆による人麻呂の歌が刻まれている。



平成7年（1995）の発掘調査によって、この地が古代の狩り場（葉獵）であった「阿騎野」の重要施設であることが判明し、町では保存整備委員会を発足させた。そして、調査された「中之庄遺跡」の遺構を復元保存し、故中山正實画伯の壁画「阿騎野の朝」をもとにした柿本人麻呂石像を建立し、「阿騎野・人麻呂公園」として保存・整備している。公園内には掘立柱建物2棟、竪穴式住居1棟や、発掘跡等々が復元されている。また、毎年、大陰暦の11月17日には「かぎろいをみる会」が行われ、様々なイベントが催される。



下の碑文を読む河内さん(上左)。この日は、町のJAの主催で農業祭りのようなイベントが行われていた。



2. 中之庄遺跡

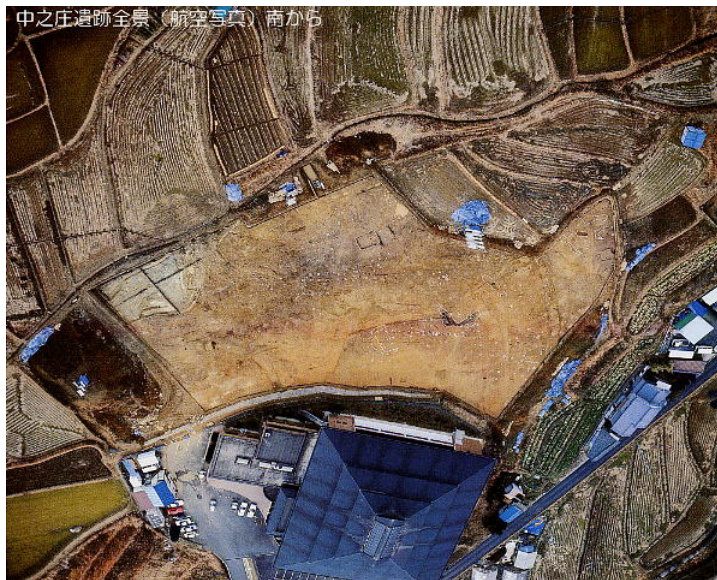
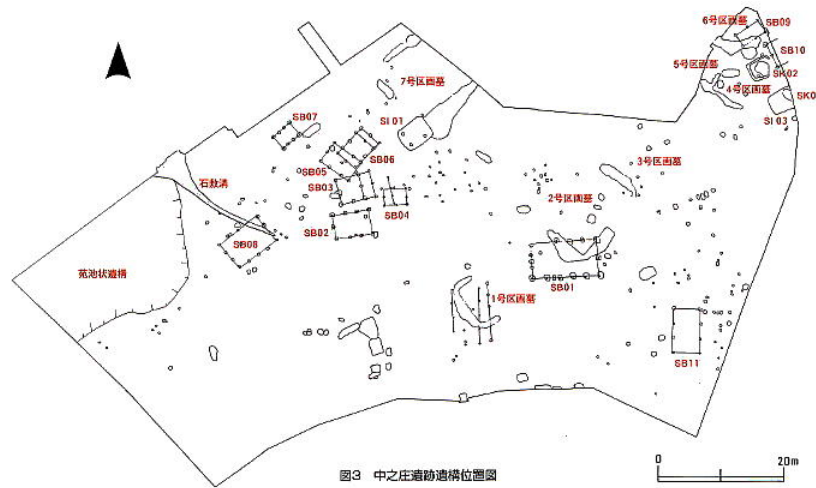
中之庄遺跡は、大宇陀町市街地の西側に東西に延びる微高地上に立地する。これまで4次を超える調査が実施され、縄文時代早期から中世に至る複合遺跡であることが明らかとなっている。ことに、1995年に大宇陀町教育委員会によって行われた3次調査では、飛鳥時代の建物群等が検出され注目を集めた。

確認された飛鳥時代の遺構には堀立柱建物11棟以上、竪穴住居跡3棟、堀、石敷溝、苑地状遺構などがある。堀立柱建物のうち最大のもの(SB01)は、桁行五間、梁間二間(桁行柱間寸法七尺一約2.1m、梁間柱間寸法十尺一約3m)の規模を持つ東西棟で、中心建物の一つと推定される。また石敷溝は、浅いU字形の溝底に1~3cm大の小石を敷き詰めている。現存値で、幅0.3~3m、長さ約20mを測る。苑地状遺構に向かって伸び、その先端は苑地状遺構の汀線と接し一体となる。この堀立柱建物を中心とした飛鳥時代の遺構群は、建物方位や重複関係によりいくつかの小期に分れる。その中の一時期には、SB01を中心に、その周囲に附属する建物群や庭園風の施設が配される構造を持つ、宮的な施設が存在した可能性が高い。その時期は出土土器から7世紀後半~末に位置づけられる。

ところで、中之庄遺跡周辺は記紀、万葉集にみられる古代「阿騎野」の推定地であり、既述したように当該期には、壬申の乱関連の事項(672年)、天武天皇の行幸(680年)、軽皇子の遊獵(692年)等の記事に、「苑田吾城」(うだのあき)として登場する。調査によって検出された飛鳥時代の遺構群は、その内容及び経営年代より文献記事事項との一致等から判断して、先の文献に「苑田吾城」として記される「阿騎野」の中心施設の一端である公算が高い。また、調査地周辺部の地籍図(明治23年測図)の調査から、調査地の南側に隣接する大宇陀町体育館敷地部分に東西約50m、南北約80mを測る長方形の区画割が存在する事が判明した。(図2網部分:省略)。

この部分は周囲よりも一段高く、調査地付近の筆界がすべて自然地形に即した水田畦畔に沿う形で存在するのに対し非常に特異である。加えて、この区画割の筆界方位が、堀立柱建物SB01の方位と一致する事も注目される。地割りの形成そのものが飛鳥時代に遡るかどうかは現時点では不明である。しかし、大宇陀町体育館部分に堀立柱建物SB01と方位を同じくするような、一定の長方形区画が存在した可能性も指摘できよう。

【大宇陀町教育委員会 2001年3月30日発行「大宇陀町文化財ライブラリー・・・2 阿騎野と中之庄遺跡」より抜粋】
(以下図、発掘写真も同資料より転載。)



前出の教育委員会の資料でも明らかなように、これらの遺構は官営の役所だった可能性大である。「阿騎野」は「葉狩り」の地として古くから知られていた事を考えると、草壁皇子や軽皇子もここに宿泊したかもしれないのだ。今、私の立って

るこの地に、天武天皇が寝たのかもしれないと思うと、感慨もまたひとしおである。稜々たる古今なるかな。



「ええ～、飛鳥時代も竪穴式住居なん？ こんな縄文時代とちゃうの。」と誰かが言っていたがとんでもない。掘立柱の住居に住めた階層はごくごく僅かであり、多くは官営の建物や有力者の住居だった。一般庶民は多くが竪穴式住居だったのだ。地域によっては鎌倉時代、室町時代になっても、竪穴式住居に住んでいたのである。





▲ 掘立柱建物群と竪穴住居跡S1 01 (奥側に瓦池状遺構)
▼ 竪穴住居跡S1 01 (北から)



▲ 掘立柱建物S101 (西から)
▼ 石敷溝 (右手(西)が瓦池状遺構)



▼ 石敷溝 (部分)



邪馬台国を通じて古代世界を知る！卑弥呼から桓武天皇までを学ぶ。
邪馬台国大研究
chikuzen@inoues.net / 井上京訓の寺
邪馬台国大研究・ホームページ / 歴史倶楽部 / 阿騎野・人麻呂公園

